

個別施設整理番号	1001	林道台帳索引番号番号	4	施設管理者	山江村
路線名	屋形線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	第1橋
施設の所在地	山江村大字万江	起点からの距離	0.6km	建設年度	1970
供用年数	44	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	-	橋格(設計荷重)	-	橋下条件	屋形谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.3m(7.3m)		幅員(車道幅員)	3.68m(3.4m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	-
		支承形式	-	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道屋形線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路としての機能も有しているが、専ら林業専用道としての利用が主である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和元年12月25日				
	調査結果	地覆に大幅な欠損が確認された。交通の安全に支障をきたす恐れがある。その他遊離石灰、床版下面の腐食等損傷があったが、いずれも橋梁躯体に影響は少ないと思われる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	建設の時期から、コンクリートの質の不良及び経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年～令和6年				
	内容	地覆の改修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましく、優先度が高いため、令和3年度に実施する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 他の橋梁と比較し、一番古い時期に建設され、劣化も顕著なため、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	地覆改修工 約 1,000千円				
管理方法	長寿命化対策として、地覆の改修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)			1.0			0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検		補修工			定期点検				

備 考

個別施設整理番号	1002	林道台帳索引番号番号	6	施設管理者	山江村
路線名	柳野線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	第1橋
施設の所在地	山江村大字万江	起点からの距離	0.3km	建設年度	1979
供用年数	40	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	-	橋格(設計荷重)	-	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m(6.0m)		幅員(車道幅員)	6.5m(5.5m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	-
		支承形式	-	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道屋形線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災専ら林業専用道としての利用が主である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和元年12月17日				
	調査結果	堅壁に顕著な漏水が見られた。また、床版下部に錆交じりの遊離石灰が見られた。放置すると雨水が内部に侵入し内部鋼材が腐食するなど、劣化が進展することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	橋梁上部にはヒビ、クラックが見られないことから、橋梁継ぎ目からの雨水の侵入が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年～令和6年				
	内容	橋梁継ぎ目の雨水侵入防止を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮して、令和4年度に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 主桁、橋台の躯体自体には大きな損傷は見られず、橋梁としての機能には影響が少ないと考えられるため、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	ひびわれ補修工 約 500千円				
管理方法	長寿命化対策として、橋梁継ぎ目の補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)				1.0		0.2				
対策の内容・実施時期	定期点検			補修工		定期点検				

備 考

個別施設整理番号	1003	林道台帳索引番号番号	8	施設管理者	山江村
路線名	今村線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	第1橋
施設の所在地	山江村大字万江	起点からの距離	0.5km	建設年度	1982
供用年数	37	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	-	橋格(設計荷重)	-	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.47m(6.47m)		幅員(車道幅員)	4.83m(4.03m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	-
		支承形式	-	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道今村線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。専ら林業専用道としての利用が主である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年3月13日				
	調査結果	起点側基礎部に大幅な洗掘が見られた。放置すると橋梁躯体に沈下などの影響が心配されるため、早期に根継工などの対策が必要であると思われる。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
	劣化原因	沢部流水による浸食。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年～令和6年				
	内容	根継工による補修。				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮して、令和5年度に実施する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 基礎部の洗掘であり、橋梁躯体への影響を考え、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	根継工 約3,000千円				
管理方法	長寿命化対策として、基礎部の根継工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)					3.0	0.2				
対策の内容・実施時期	定期点検				根継工	定期点検				

備 考

個別施設整理番号	1004	林道台帳索引番号番号	8	施設管理者	山江村
路線名	今村線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	第2橋
施設の所在地	山江村大字万江	起点からの距離	1.2km	建設年度	1983
供用年数	36	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	-	橋格(設計荷重)	-	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.45m(6.45m)		幅員(車道幅員)	6.32m(5.52m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	-
		支承形式	-	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道今村線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、専ら林業専用道としての利用が主である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年3月13日				
	調査結果	起点側基礎部に洗掘が見られた。放置すると橋梁躯体に沈下などの影響が心配されるため、早期に根継工などの対策が必要であると思われる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	沢部流水による浸食。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年～令和6年				
	内容	根継工による補修。				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮して、令和5年度に実施する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 基礎部の洗掘であり、橋梁躯体への影響を考え、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	根継工 約3,000千円				
管理方法	長寿命化対策として、基礎部の根継工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)					3.0	0.2				
対策の内容・実施時期	定期点検				根継工	定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	1005	林道台帳索引番号番号	8	施設管理者	山江村
路線名	今村線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	第3橋
施設の所在地	山江村大字万江	起点からの距離	1.7km	建設年度	1987
供用年数	32	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	-	橋格(設計荷重)	-	橋下条件	今村川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m(6.0m)		幅員(車道幅員)	5.95m(5.15m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	-
		支承形式	-	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道屋形線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。専ら林業専用道としての利用が主である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年3月13日				
	調査結果	主桁と縦壁の継ぎ目に空隙があり、遊離石灰が見られた。また、主桁下部に鉄筋露出が見られ、軽度の腐食があった。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	空隙については雨水の流入が考えられる。鉄筋露出については当初から下部のコンクリートが薄く、露出したものと思われる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年～令和6年				
	内容	定着部及び橋梁下部の補修工				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮して、令和5年度に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 主桁、橋台の躯体自体には大きな損傷は見られず、橋梁としての機能には影響が少ないと考えられるため、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	定着部及び橋梁下部の補修工 約 1,000千円				
管理方法	長寿命化対策として、定着部及び橋梁下部の補修工を行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)					1.0	0.2				
対策の内容・実施時期	定期点検				補修工	定期点検				

備 考